

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第19週 (5/6-5/12) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		19週	18週	17週	16週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	17	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	26	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	5/6-5/12	4/29-5/5	4/22-4/28	4/15-4/21	4/29-5/5
			19週	18週	17週	16週	18週
小 児 科	RSウイルス感染症		2 0.11	0 0.00	1 0.06	4 0.22	22 0.17
	咽頭結膜熱	○	14 0.78	1 0.06	4 0.24	8 0.44	26 0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	55 3.06	15 0.83	58 3.41	45 2.50	137 1.05
	感染性胃腸炎		75 4.17	19 1.06	99 5.82	114 6.33	156 1.19
	水痘		4 0.22	2 0.11	4 0.24	9 0.50	22 0.17
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	8 0.06
	伝染性紅斑		10 0.56	0 0.00	17 1.00	19 1.06	43 0.33
	突発性発しん		12 0.67	1 0.06	12 0.71	18 1.00	7 0.05
	ヘルパンギーナ		2 0.11	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		3 0.17	0 0.00	1 0.06	0 0.00	2 0.02
イン フル	インフルエンザ*(高病原性鳥イン フルエンザを除く)		9 0.32	4 0.15	70 2.59	93 3.32	137 0.66
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	0 0.00	1 0.20	2 0.40	1 0.03
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	40歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	百日咳	女性	50歳代	抗体の検出
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定等	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
A型肝炎	女性	20歳代	血清IgM抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出

・第19週は、結核5件(67)、A型肝炎1件(3)、急性脳炎1件(4)、百日咳2件(38)、風しん3件(26)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第19週のコメント

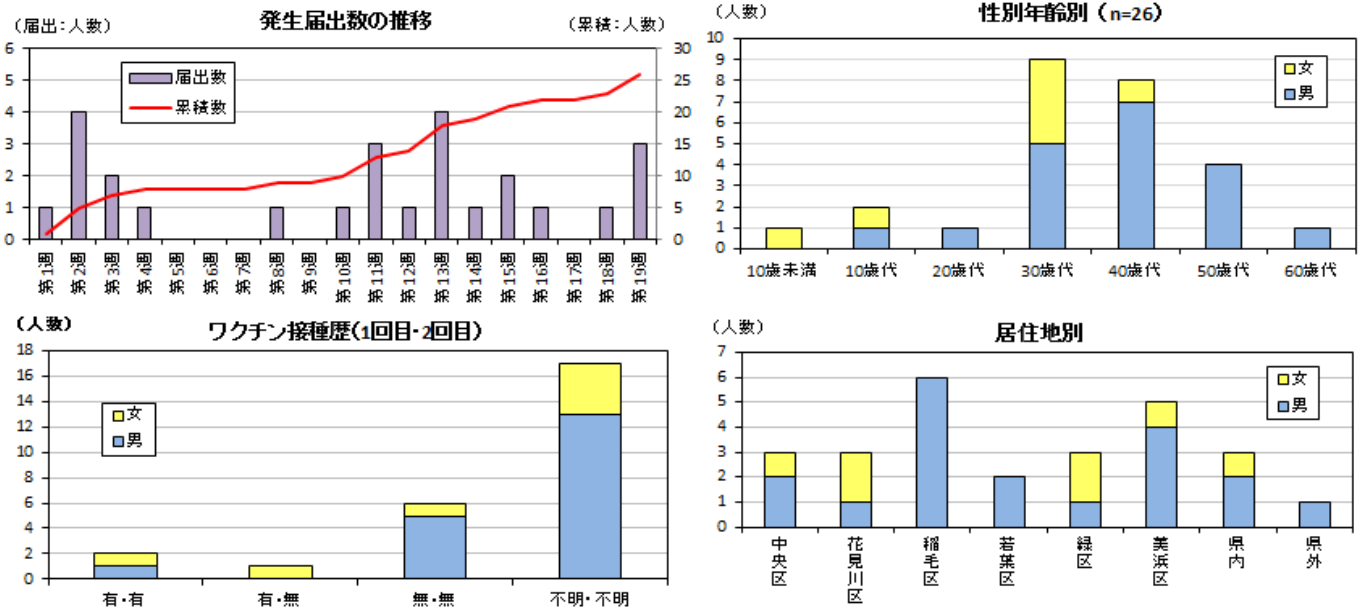
＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると最多。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.06となった。過去10年の同時期と比べると多め。

■ トピック ■

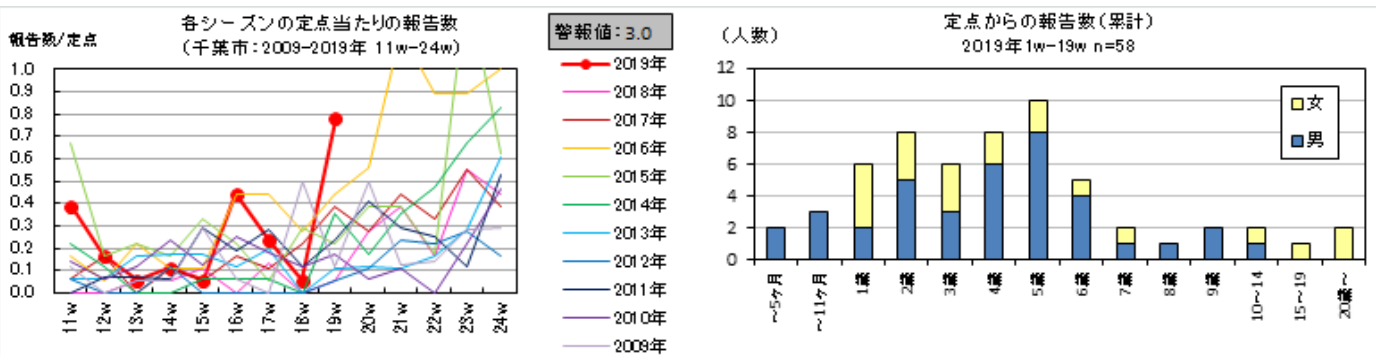
<風しん>

全国レベルの第18週の発生届累積数は1434件で、昨年の同時期の100倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第19週に3件の発生届があり、2019年の累積数は26件となりました。性別では男性が73.1%（19名）、女性が26.9%（7名）となっており、年齢階級別では30歳代（34.6%：9名）、40歳代（30.8%：8名）、50歳代（15.4%：4名）の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。居住地別では稲毛区（23.1%：6名）、美浜区（19.2%：5名）の順で多く、ワクチン接種歴が無し又は不明が9割近くを占めています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第18週の定点当たりの報告数は0.20で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、鹿児島県、石川県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.20で、全国レベルと同等となっています。千葉市の第19週は前週より増加し0.78となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。例年の発生動向によると、今後増加する傾向にあります。区別の発生状況は、若葉区及び緑区（共に1.5/定点）で最も多く、若葉区では2歳で最も多く、緑区では1歳、2歳及び4歳で発生報告がありました。2019年第1週から第19週までの累積報告数は58件で、性別では男性が65.5%（38名）、女性が34.5%（20名）となっており、年齢階級別では5歳（17.2%：10名）、2歳及び4歳（共に13.8%：8名）の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第18週の定点当たりの報告数は0.77で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、沖縄県、岩手県、福島県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.05で、全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第19週は前週より増加し3.06となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、緑区（6.0/定点）が最多で、同区の20歳以上で発生報告が最も多く、20歳未満では2歳、4歳、5歳及び9歳が多くなっています。今シーズンである2018年第36週から2019年第19週までの累積報告数は1551件で、性別では男性が55.5%（861名）、女性が44.5%（690名）となっており、年齢階級別では4歳（14.6%：226名）、5歳（13.3%：207名）、6歳（12.9%：200名）の順で多くなっています。

